



TITLE:

2・3回生年間活動報告

AUTHOR(S):

加地, 健一

CITATION:

加地, 健一. 2・3回生年間活動報告. 岩本ゼミナール機関誌 1997, 1: 163-166

ISSUE DATE:

1997-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56824>

RIGHT:

2・3回生 年間活動報告

文責： 加地 健一

今回が初めての機関誌の発行ということで、私も不慣れなことをすることになり、至らない点も多いと思われますが、2・3回生の一年間の活動報告をさせていただきます。また、来年からは、この報告を反面教師として使っていただき、次からのゼミ長報告が更なる良いものになればと思います。

【年間活動】

☆春合宿： 岡山県倉敷市の水島コンビナートの一部である、川崎製鉄に4月4日から1泊2日で行う。初日に視察や工場見学を行い、夜は同社の京大OBと懇親会を行う。同社の研修センターに宿泊させてもらう。二日目に、伊東光晴著の『21世紀の世界と日本』（岩波書店）を、2回生のメンバーにプレゼンしてもらう。その後は、自由行動。

☆ゼミ： 今年、P.R.クルグマン、M.オブズフェルド共著「国際経済 I 国際貿易」（新世社）を一年間かけて勉強する。日付と内容を以下に記す。

5月13日	第二章	リカード・モデル	
5月20日	第三章	特殊要素と所得分配	
5月27日	岩本先生	出張のため休講	
6月 3日	第四章	ヘクシャー・オリーソン・モデル	
6月10日	第五章	貿易の基本モデル	
6月17日	第六章	規模の経済、不完全競争と国際貿易	(1/2)
6月24日	第六章	規模の経済、不完全競争と国際貿易	(2/2)
7月 1日	第七章	国際要素移動	
7月 8日	第八章	地域経済問題	
7月15日	インゼミ、夏合宿のミーティング (ゼミコンパ)		
10月 7日	第九章	貿易政策の手段	(1/2)
10月14日	第九章	貿易政策の手段	(2/2)
10月21日	岩本先生	出張のため、インゼミ勉強会	
10月28日	第十章	貿易政策の政治経済	
11月 4日	振替休日		
11月11日	第十一章	発展途上国における貿易政策	
11月18日	第十二章	先進国における産業政策	
11月25日	学園祭 休講		
12月 2日	インゼミ 東大組発表		
12月 9日	インゼミ 関学組発表		
1月 7日	4回生 ゼミ論発表		
1月14日	岩本先生	出張のため休講	

年間皆勤賞： 加地、桐山、田中、岡崎、清谷

☆夏合宿： 9月7日から9月9日まで、滋賀県近江高島の白浜荘で行う。インゼミに向けて、渡辺利夫著『開発経済学』（日本評論社）を勉強する。飲み会や、湖畔での自由行動も、もちろん含まれる。インゼミに向けての班分け、ミーティング等も行う。

☆インゼミ東大： 中西ゼミと12月7日に開催。紆余曲折があったのだが、結局は東南アジアにおける外資に規制をすべきかどうかについてディベートする。東大で開催。京大の勝利。

☆インゼミ関学： 鈴木ゼミと12月14日に開催。当初の予定よりも、かなり延期される。京都府会館で開催。日米非関税障壁で、フィルム、自動車、半導体についてディベートする。関学の勝利。

【2・3回生ゼミ委員】

ゼミ長	:	加地 健一	(3回生)
副ゼミ長	:	岡崎 将也	(2回生)
インゼミ委員	:	桐山 友一 (東大)	(3回生)
	:	鎌田 研人 (関学)	(3回生)
会計委員	:	田中 みゆき	(3回生)
合宿委員	:	浜 和彦	(3回生)
コンパ委員	:	マイケル タバート	(3回生)

【総括評価】

ここからは、私の個人的な見解をもとに、この一年のゼミ活動について、述べていこうと思います。

年度当初は、2回生の人数が少なく、少々心配していたのですが、春合宿で、1回生同士が仲が良く、また、各個人がしっかりした人間のようにだったので、安心していました。一年たった今、それが間違いでなかったことが、わかりました。3回生も、相変わらず、和気藹々とした、居心地の良い（ルーズ、ともいえる）雰囲気をかもし出し、今年の岩本ゼミは、とてもアットホームな、良い環境だったと思います。

また、今年は、院生のオブザーバーとして、高橋信弘さんと、柴田茂紀さんが、私たちの面倒を見てくださいました。先生が出張の時や、特にインゼミの時、大変お世話になりました。とても親しみやすい方々で、私たちは上回生に恵まれていたといえます。（最後には、あだ名で呼び捨てされていましたが、2・3回生は、呼び捨てしたとしても、尊敬の意を込めるように。）

岩本先生は、後期になってから、定期的な出張に加えて、新たに仕事が増え、ゼミ運営は、困難なものだったと思われますが、先生のご指導のもと、一年間で、2・3回生は、十分なノルマをこなし、それ以上の事をインゼミや、合宿などで行えたと思います。よく、他のゼミの学生から「岩本ゼミは、しんどそう」と言われましたが、それだけ充実していたのだと思います。個人的には、去年と比べて、少し人数が減ったので、その分、各個人の担当する量が少し増えたのではないのでしょうか。来年は、今年と比べて、さらに2人減ることになりますが、その分、何もしないでゼミを3年間すごす、というメンバーがいなくなるので、丁度いい人数になるのではないのでしょうか。

【各論評価】

ここからは、各事項について、個人的な評価、来年に向けてのアドバイスなどを述べていこうと思います。

☆春合宿 : 日程が2泊3日から1泊2日になったので、自由行動が少なく、新しい2回生のメンバーの顔と名前を覚えることすら出来ませんでした。ただ、短い期間の間に、かなりたくさんの方が来て、充実した合宿だったと思います。来年も、半分リクルートを考慮して受け入れてくれる、という企業に視察に行く形にすれば、とても、おいしい合宿が出来ると思います。例年通り、工場視察などがあったほうが私は、ためにもなるし、おもしろいのではないかと思います。2泊3日で、そんなに遠くないところならば、時間的にも、経済的にも丁度いいのではないのでしょうか。

☆ゼミ（前期） : 最初の2回は、3回生のみの班でプレゼンし、2回生に通常のゼミの運営に慣れてもらいました。年度始めでもあり、先生も院生も学部生も、ハイテンションで、2回生がビビルのではないかと心配していたのですが、そのような気配はなく、2回生のプレゼンは3回生以上にしっかりしたものでした。出席に関しては、皆勤が、加地、前田、マイケル、桐山、田中、岡崎、関、清谷と、大変優秀でした。ただ、この時期から、一人、脱落していく者がいましたが、彼に対して、私がもう少しフォローをすべきだったと思います。全ての新2回生をゼミに残すことは、無理で好ましいことではないかもしれませんが、来年ゼミ長の岡崎君には、なるべく多くのメンバーが残るように、電話するなり、相談するなり、努力して欲しいと思います。前期の間は、予定通りに事が進み、教科書も丁度区切りの良いところで終わることが出来ました。また、何回かゼミの回数が進むにつれて、今年からオブザーバーの柴田さんの発言も増え始めました。なかなか鋭い質問や、専攻されている分野からの詳しい補足説明があり、助かりました。

☆夏合宿 : 開催した時期が9月だったということもあり、さすがに琵琶湖で某Tさんのビキニパンツ姿は拝見出来ませんでした。そのため、インゼミに向けての対策ができ、ゼミ生の更なる親睦が深まったと思います。去年は南紀白浜で、今年は、琵琶湖の白浜荘と、少しグレードダウンしたような気もするのですが、全員が集まったということで、合宿委員の努力に感謝したいと思います。来年も、この時期に開催し、思う存分、羽が伸ばせる場所を選べばいいのではないのでしょうか。もし、岩本先生が、来年も白浜荘を勧めれば、それは単に先生の実家から近くて楽だからだ、ということをお忘れなく。来年ぐらい、山がいいな。（田中さんの実家あたりがいいかも。）勉強と遊びの比率は、今年の合宿ぐらいでいいのではないのでしょうか。あと、合宿用の本を選ぶ際、ディベートに使える物を選ぶことが重要なので、前期の最後のほうに、ディベートのテーマを絞っておくこともいいかもしれません。今年、扱った本は、関学組には、あまり役に立たなかったと思います。

☆ゼミ（後期） : 後期になると、どちらかというと、インゼミのほうで、頭がいっぱいだったという印象があります。さて、後期のゼミの出席状況は、前期と比べて少々落ちますが、事前に連絡があり、無断欠席が0という優秀な状況でした。ただし、前期と比べて、ゼミ開始の時間が遅く、10分から20分遅れてくる者がふつうになり、その点では、少々ルーズだったと思います。また、岩本先生が超多忙な時期があり、その際は、急遽、高橋ゼミになったり、柴田ゼミになったりしましたが、

院生の方々のおかげでうまく乗り切ることができました。しかし、後期のゼミは、前期と比べて、ディスカッションに（参加できない、ではなく）参加していないメンバーが目立ったと思います。果たして、それが私語だったのか、それとも、プレゼンでのわかりにくい所を、相談していたのかは、不明です。

☆インゼミ（東大）： 東大側のインゼミは、桐山君に任せていました。柴田さんがお世話役として面倒を見ていただきました。予定の変更は直前までなかったのですが、五日前になって、急遽テーマ調整があり、かなり陰湿な雰囲気になっていました。一度、研究室に入って、すごく重い空気のにまれて焦りまくったのを覚えています。しかし、ディベートの後は、東大の方々とはじけまくった飲み会などがあり、中西ゼミとの友好関係は築けたとおもいます。来年も続けられると思います。（その判断は、現2回生に任せますが。）しかし、テーマ設定を、お互いが不利になりすぎない程度に設定し、ディベートしやすいものを選ぶのが肝心だと思います。2回生は、この経験をフルに活かしてください。

☆インゼミ（関学）： こちらは、鎌田君が担当していました。高橋さんにお世話役になって頂きました。開催日時の変更、事前条件の交渉で難航しました。去年の関学とのディベートについて、情報やノウハウが伝達されてなく、去年、ディベートに関して、現3回生（当時2回生）が、参加できていなかったのが、今になって響きました。当日でもディベート運営に関して、コンセンサスがとれず、陰湿なムードのまま、ディベートに入りました。しかし、その後の飲み会で友好関係は築けたと思います。来年は、ディベートに関してはプロである鈴木ゼミと、ディベートのテーマだけでなく、ディベートそのものの、形式（ハード面）についても、インゼミ委員は打ち合わせすべきでしょう。また、現2回生は、この経験をもとに、来年はスムーズにディベートを運営できるように、努力してください。

☆新2回生勧誘： 例年ある、ゼミ紹介に参加させて頂きましたが、今年の新ゼミ生は、8人と、去年を一人上回るだけでした。だんだん、ゼミに入らない経済学部生が増えていくという状況だそうですが、来年の新2回生勧誘に関して、少しいわせてもらいます。今年は、「楽でもなく、しんどくもない」という路線で私は宣伝したつもりだったのですが、あまり芳しくありませんでした。頭数だけでもそろえるなら、「楽さ」「単位の取りやすさ」で攻めていけばいいと思います。しかし、質の良い学生を集めるには、純粋に国際経済を専攻したいという人間を、甘い言葉なしで募集するしかないでしょう。ただ「面接でテストをする」とか「〇〇を条件とする」という事は、なくした方がいいと思います。今年は、一時選考にきた学生が少なく、たいへん焦りましたが、これからも、岩本ゼミは、きつ過ぎることもなく、楽過ぎることもないという路線で宣伝していくべきだと思います。

【結びの言葉】

この報告書で、どれだけ一年間の活動が把握できたか、少々疑問ですが、これで報告を終わらせて頂きます。ここに載せるべき事は、まだまだ、たくさんあったと思いますが、そちらの方は、これからの同窓会で、また、御報告するようお願いいたします。